

# 岩手県感染症週報

平成25年第45週(11月4日～11月10日)

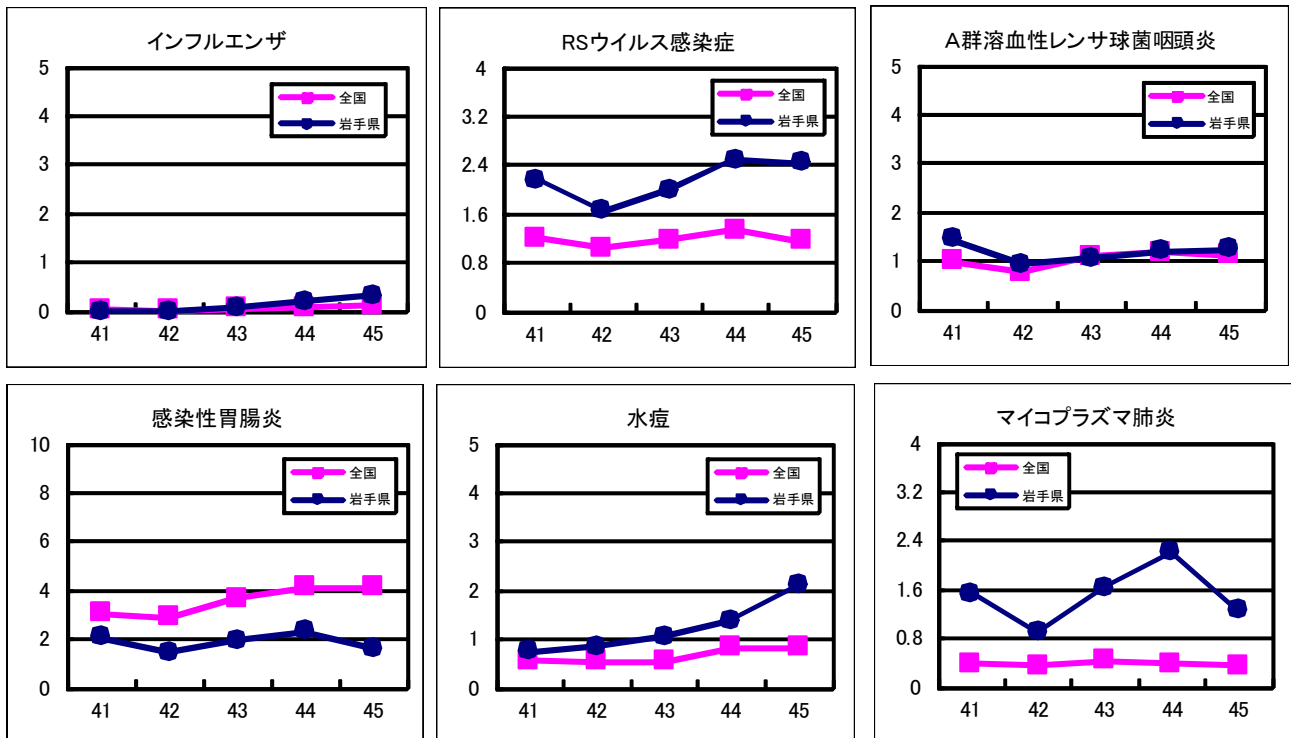
岩手県感染症情報センター

## 第45週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が、6例(潜在性結核1例)ありました。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・つつが虫病の患者の報告が、一関地区から1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・インフルエンザは、前週より増加しました。盛岡市、釜石および奥州地区から報告がありました。県環境保健研究センターでのウイルス検査ではA香港型が検出されました。ワクチンは効果が現れるまで2週間程度かかるので、流行開始前に接種を受けることが勧められます。接種を希望される方は医療機関にお問い合わせください。
  - ・感染性胃腸炎は、例年より報告数の低い状況が続いていますが、冬の流行に向けて発生の動向に注意が必要です。11月に入って、今シーズン初めての集団感染事例が発生しました。原因は胃腸炎を起こすアデノウイルスによるものでした。予防には、流水と石けんによる手洗いと、患者の汚物の適切な処理が重要です。
  - ・RSウイルス感染症は、やや減少しましたが、中部地区で多い状況が続いています。
  - ・水痘(みずぼうそう)は、増加しました。二戸地区で警報値(定点あたり患者数4人)を超えています。盛岡市、中部および一関地区でもやや多くなっています。予防には、任意接種ですがワクチンが有効です。

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		41	42	43	44	45		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0.08	0.19	0.31	→	
	全国	0.04	0.02	0.06	0.08	0.11		
RSウイルス感染症	岩手県	2.15	1.65	2	2.48	2.43	→	☆
	全国	1.21	1.04	1.17	1.34	1.16		
咽頭結膜熱	岩手県	0.08	0.05	0	0.08	0.03	→	
	全国	0.31	0.25	0.28	0.33	0.33		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.45	0.93	1.05	1.2	1.25	→	☆
	全国	0.99	0.76	1.1	1.17	1.11		
感染性胃腸炎	岩手県	2.08	1.45	1.95	2.3	1.6	→	☆
	全国	3.07	2.9	3.68	4.12	4.11		
水痘	岩手県	0.75	0.85	1.05	1.38	2.1	↗	☆☆
	全国	0.57	0.55	0.54	0.84	0.84		
手足口病	岩手県	2.18	1.4	0.65	0.83	0.9	→	☆
	全国	1.67	1.29	1.06	1.09	0.79		
伝染性紅斑	岩手県	0.08	0.08	0.03	0	0.05	→	
	全国	0.05	0.03	0.04	0.04	0.05		
突発性発疹	岩手県	0.35	0.48	0.45	0.5	0.45	→	☆
	全国	0.6	0.49	0.54	0.53	0.49		
百日咳	岩手県	0	0.03	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.2	0.23	0.1	0.1	0.08	→	
	全国	0.28	0.19	0.15	0.14	0.1		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.48	0.38	0.4	0.25	0.23	→	☆
	全国	0.23	0.22	0.22	0.21	0.21		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.21	0.43	0.57	0.29	→	☆
	全国	0.48	0.47	0.53	0.51	0.43		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.01	0.02	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0.05	0.05	→	
	全国	0.06	0.05	0.06	0.04	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.53	0.89	1.63	2.21	1.26	↘	☆
	全国	0.39	0.35	0.43	0.39	0.35		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県		0	0	0	0	→	
	全国		0	0	0.01	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	2	1	1		
	全国	2	1	8				

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が  
10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国	
		41	42	43	44	45	累計	45 累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	1
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者数	5 (1)	8 (2)	10 (2)	4 (2)	6 (1)	197 (62)	318 22860
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2 125
	腸管出血性大腸菌感染症	2	1	0	0	0	99	31 3635
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1 62
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1 44
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	1 104
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0 114
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0 16
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0 0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0 8
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0 0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0 1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0 0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0 5
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0 0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0 3
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0 0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1 42
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0 0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0 0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0 0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0 0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0 11
	つつが虫病	0	0	0	0	1	7	8 174
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1 221
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0 0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0 0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0 0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3 144
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0 8
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0 0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0 0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0 0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0 2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0 0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0 0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0 0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0 0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	2 44
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0 0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0 17
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0 0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0 0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0 4
レジオネラ症	0	2	1	0	0	13	28 978	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	1	2 25	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0 0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		41	42	43	44	45		45	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	3	14	904
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	5	245
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	3	1	308
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	5	186
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	179
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	15	1310
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	74
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	89
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	18
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	2	23	697
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	2	24
	梅毒	0	1	0	0	0	2	10	1045
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	117
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	49
	風しん	0	0	0	0	0	8	10	14251
	麻しん	0	0	0	0	0	0	2	215
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

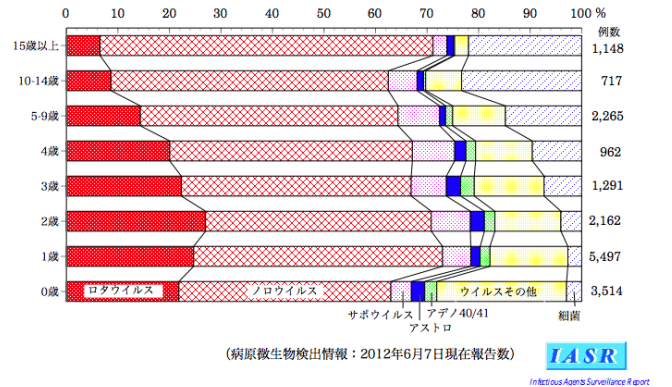
ロタウイルスによる感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因病原体による症候群名です。主要な原因病原体のひとつにロタウイルスがあります。

(図)

ロタウイルスによる胃腸炎は主に乳幼児が罹患し、潜伏期は2日間で、通常は発熱 (1/3の小児が39℃以上の発熱を認める) と嘔吐から始まり24～48時間後に水様便を認めますが、1～2週間で自然に治癒します。他のウイルスによる胃腸炎より症状が重いことが多いと言われてお

図 . 「感染性胃腸炎」散発例からの年齢別検出病原体内訳, 2005年9月～2012年5月



り、また重症な合併症として急性脳炎や多臓器不全が報告されています。特異的な治療法はなく対症療法が主体です。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎は再感染します。初回感染時の症状が最も重く、2回目以降の感染は症状が軽くなります。ロタウイルスワクチンはこの性質を応用したもので、重症化を予防することが目的です。

ロタウイルスの感染経路は、経口感染ですので、予防には患者の汚物の適切な処理や手洗いの徹底等が有効です。また、ワクチンによる予防も重要性が高くなっています。

10月14日より、ロタウイルスによる感染性胃腸炎の感染症法における取り扱いが変わります。届出基準は [こちら](#)

参考 国立感染症研究「ロタウイルス感染性胃腸炎とは」  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/3377-rota-intro.html>

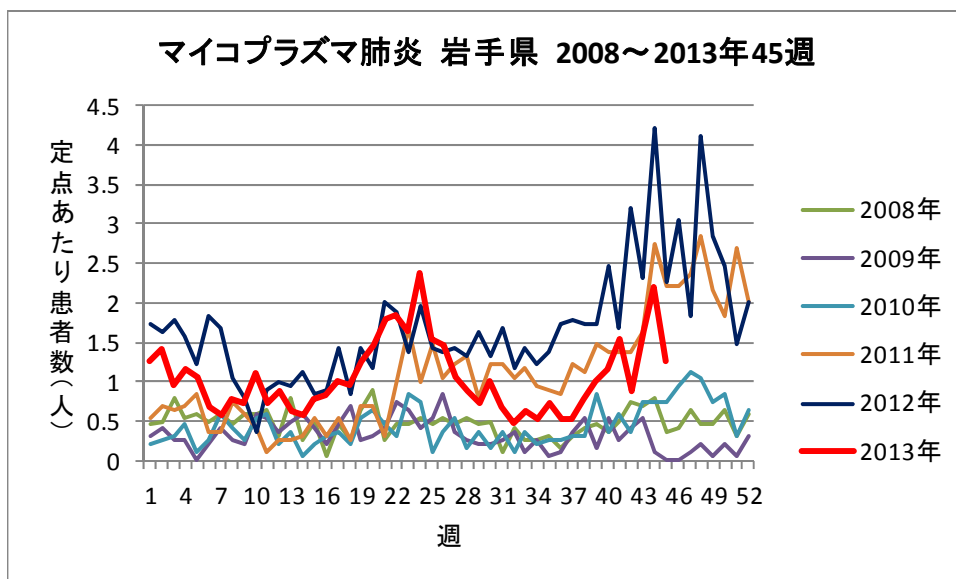
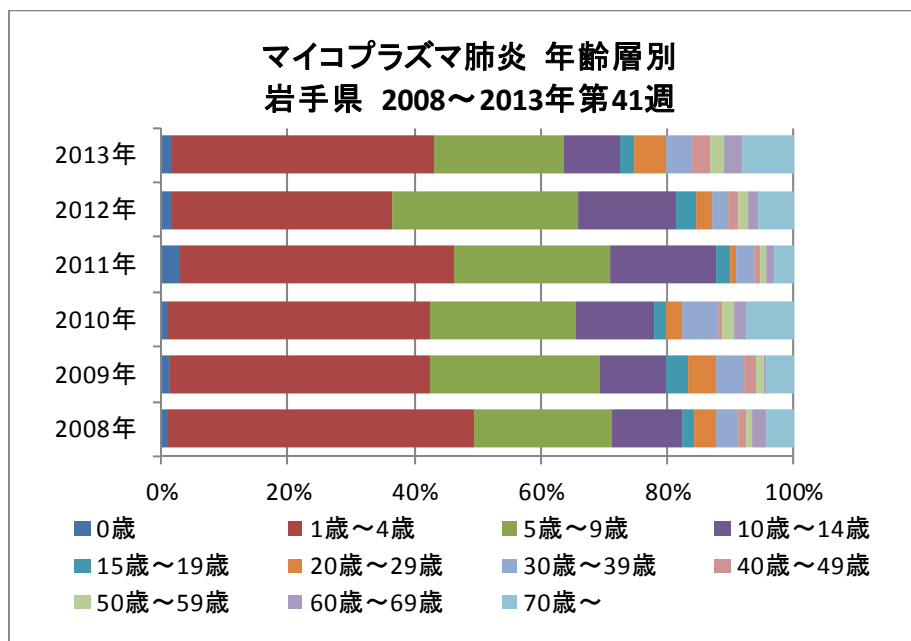
今注目の感染症 (つづき)

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという小型の細菌を原因とする呼吸器感染症です。幼児期から学童期に多い肺炎ですが、全年齢層で患者が認められます。感染経路は、飛沫感染、接触感染で潜伏期間は2～3週間と長く、症状は発熱、全身倦怠、本疾患に特徴的な長く続く乾性の咳です。

県内では、2011年の5月下旬頃より今年(2013年)の5月下旬まで報告数の多い状況が続いておりましたが、今年の夏には2011年、2012年の報告数を下回りました。

例年、秋から冬にかけて報告数が増加します。第43、44週と2週続けて増加しましたが、45週は減少しました。今後の発生の動向に注意が必要です。



今注目の感染症 (つづき)

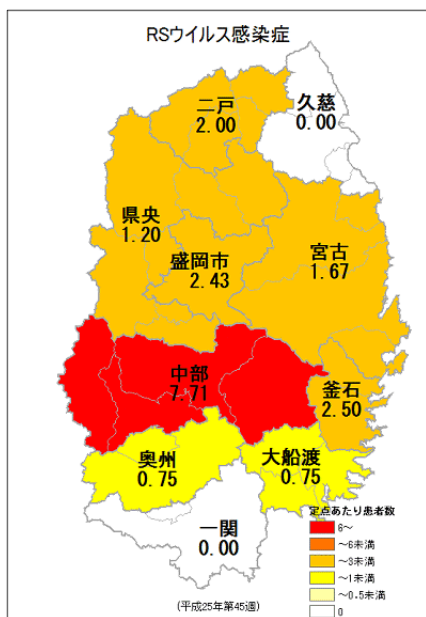
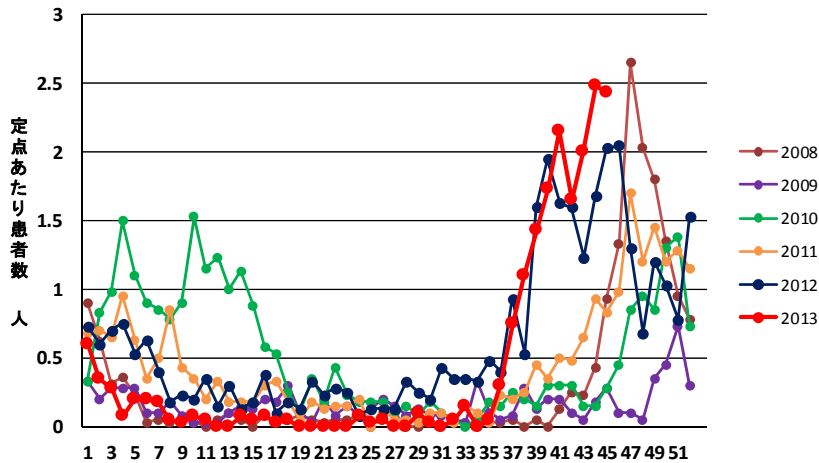
RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus)の感染によって発症する呼吸器感染症です。終生免疫は獲得されず、年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上の児が、2歳までにほぼ100%の児が初感染を受けるとされています。特に、生後数週間～数ヶ月間の時期においては、母体からの移行抗体があるにもかかわらず、肺炎や細気管支炎など重症化する場合があります。無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳炎なども注意すべき合併症です。

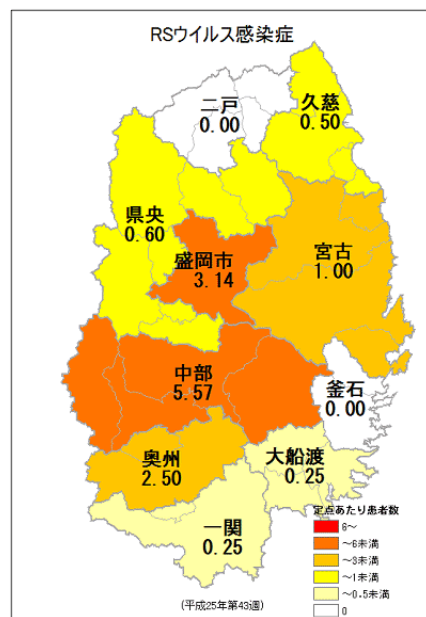
例年、冬期に発生のピークが見られていますが、昨年は7月頃から増加傾向がみられ、9月下旬と11月初旬に2つのピークがありました。今年は9月中旬より急増しています。今後の発生の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症に関するQ&A [http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

RSウイルス感染症週別患者報告数岩手県(2009～2013)



第45週



第44週

## 病原体検出情報

この週には病原体検出情報はありません。

## 集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

- 一関市内の保育所（児童数48名、職員数25名）
- ・10月27日（日）から11月5日（火）にかけ児童13名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者4名中4名（園児4名）からアデノウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（11月14日発表分）

- ・岩手県および盛岡市の発表はありません。
- 詳細は、岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。  
<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=4104&ik=1>

## 医療機関からの情報

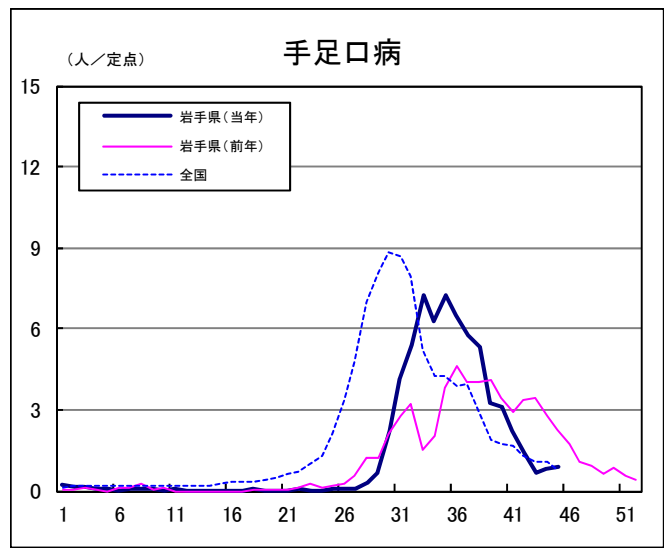
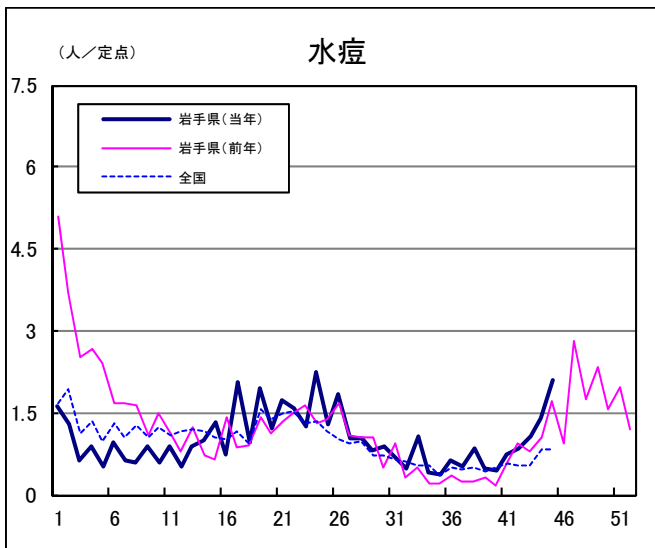
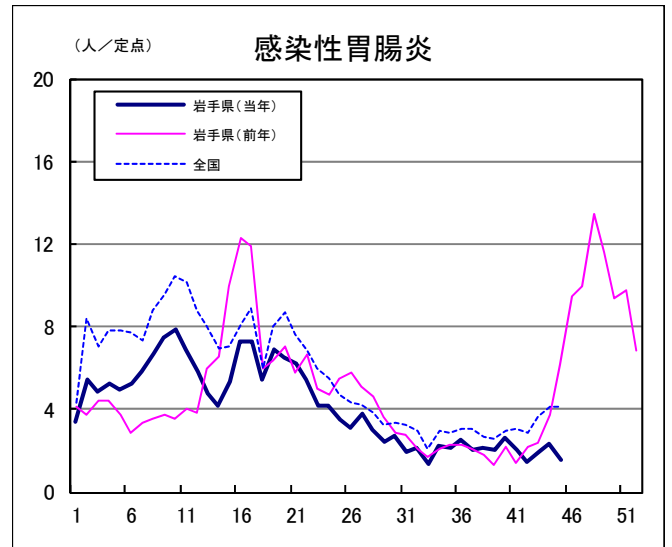
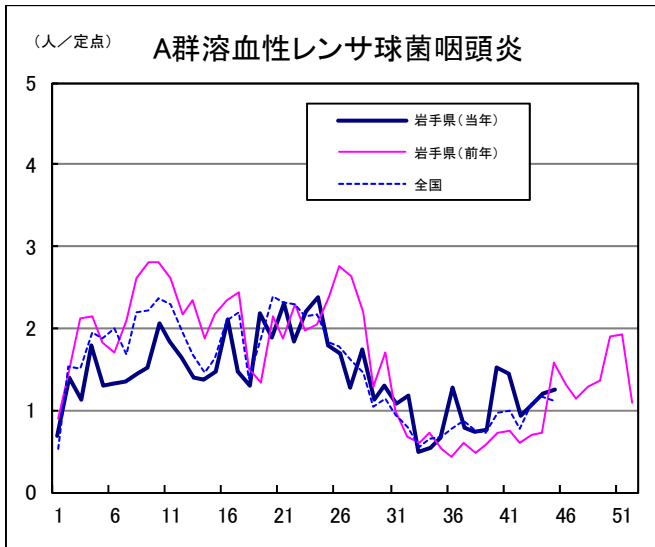
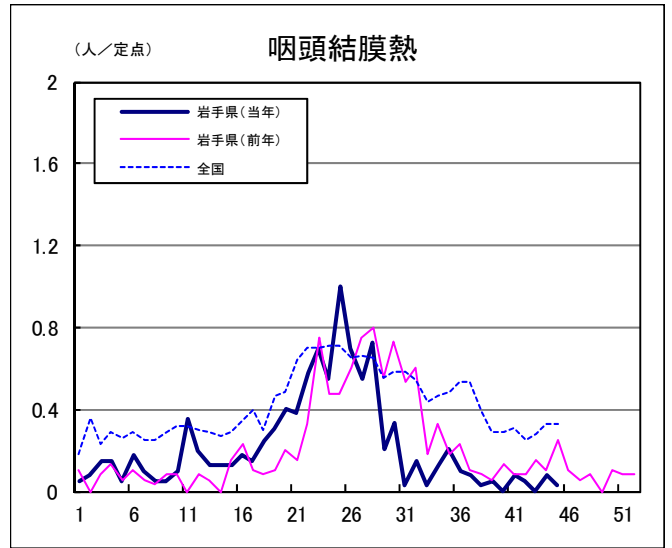
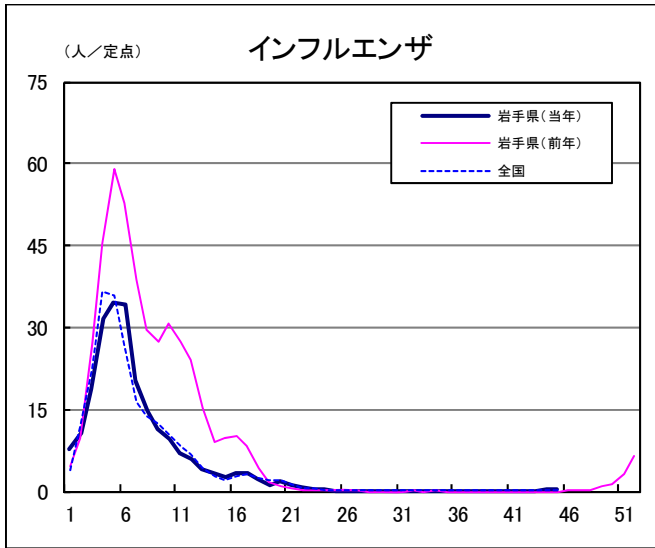
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

## Q & A

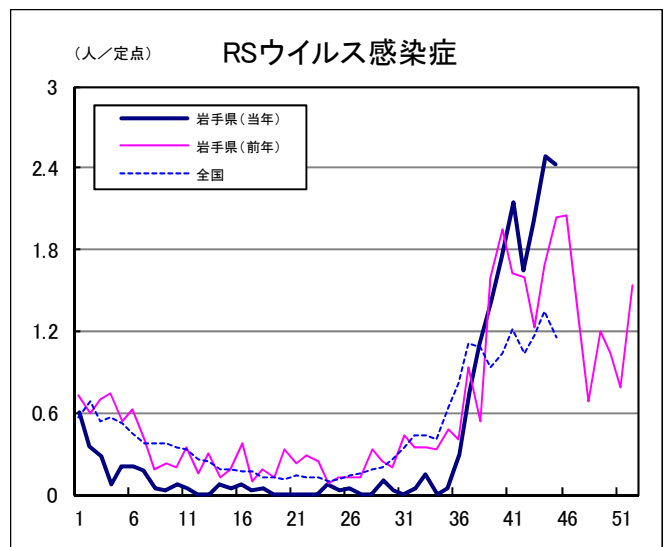
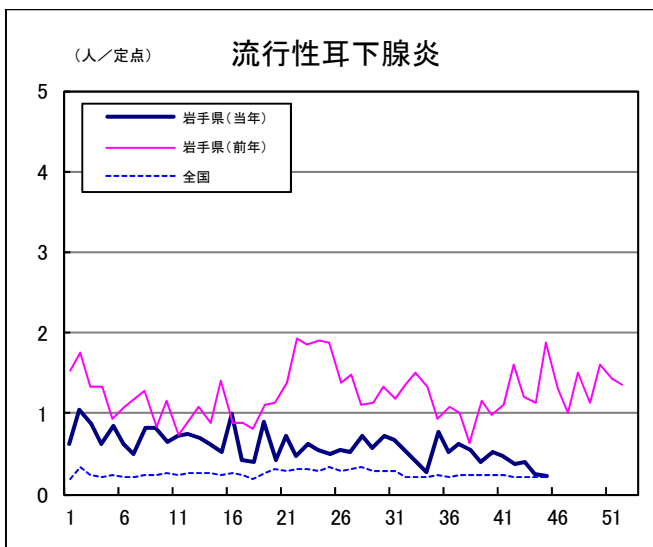
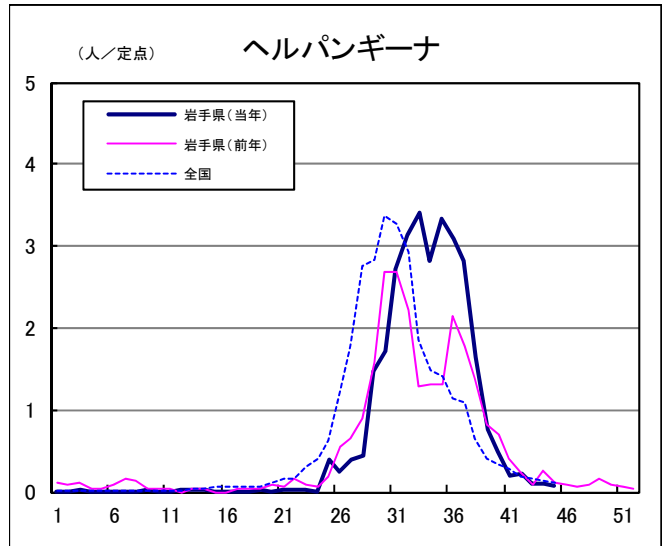
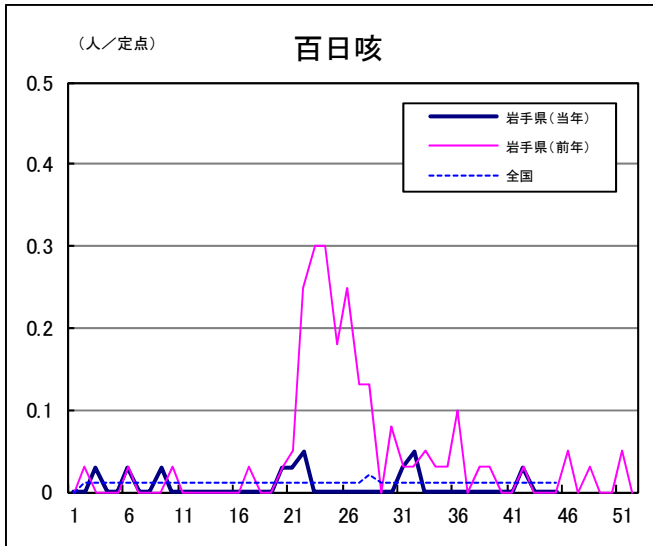
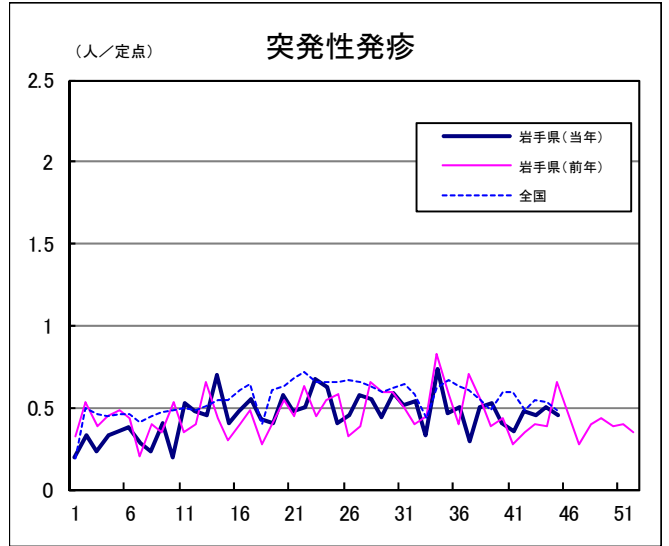
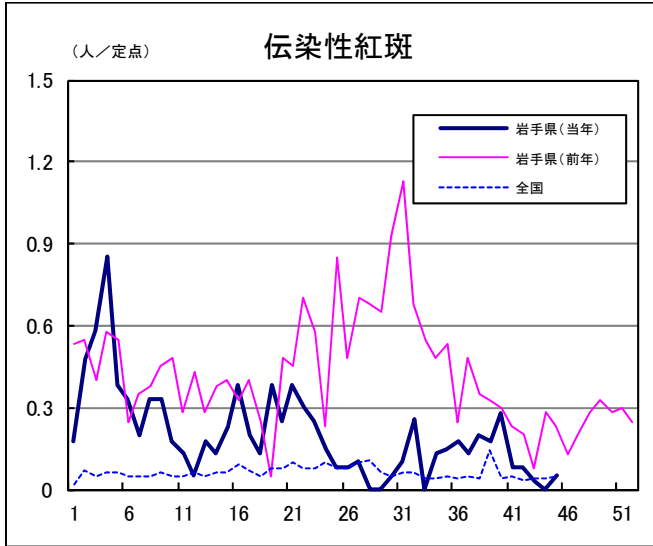
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

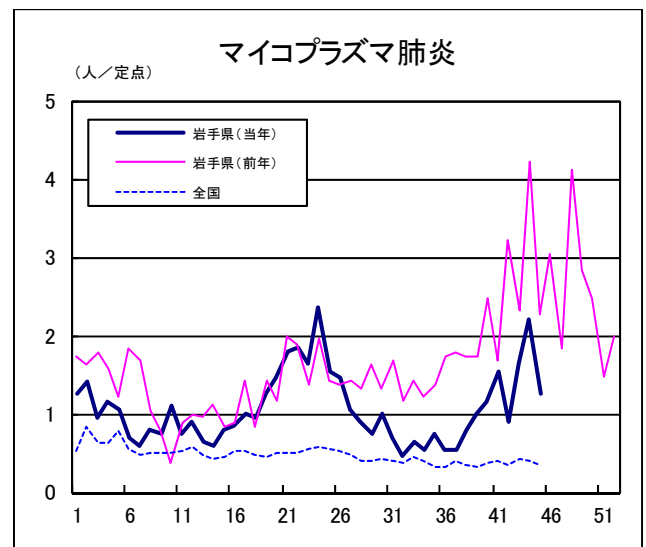
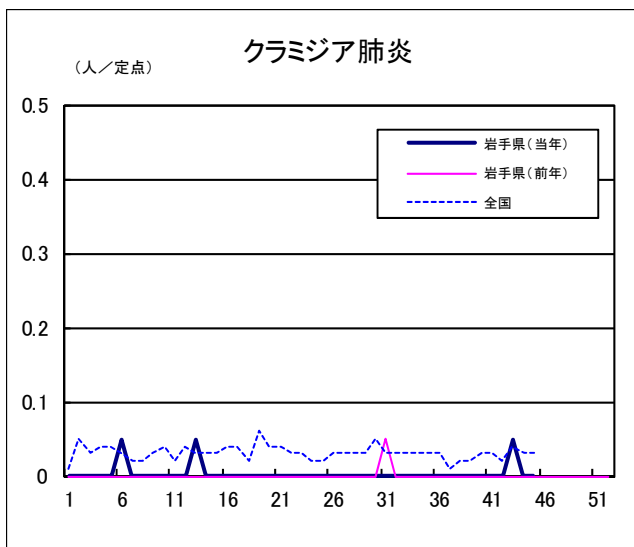
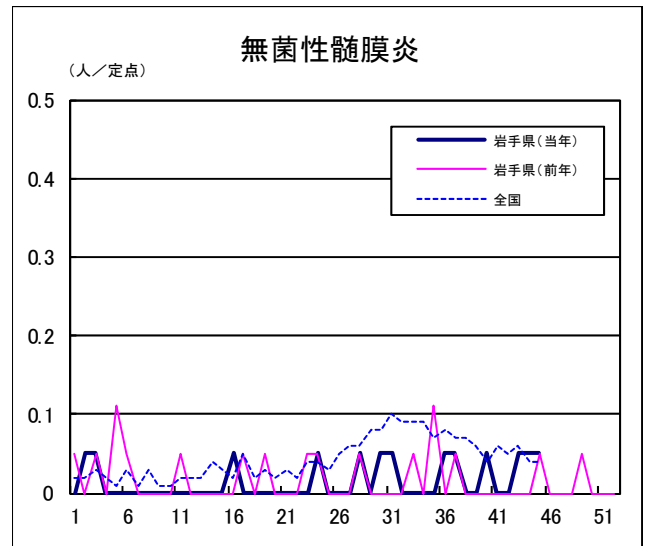
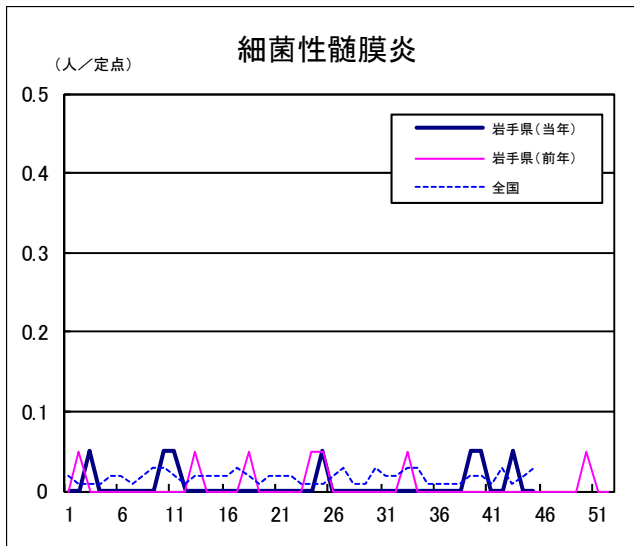
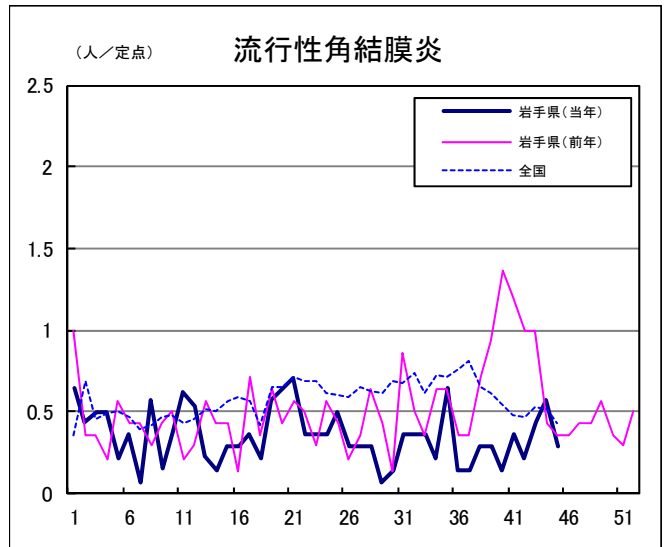
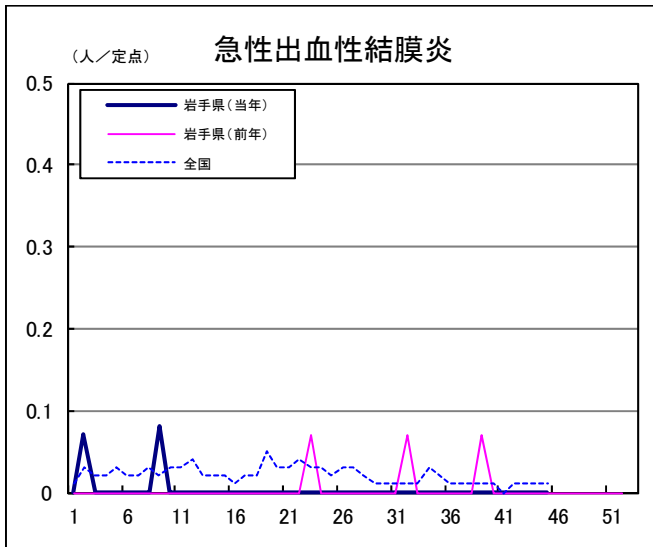
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)









定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成25年第45週 平成25年11月15日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>